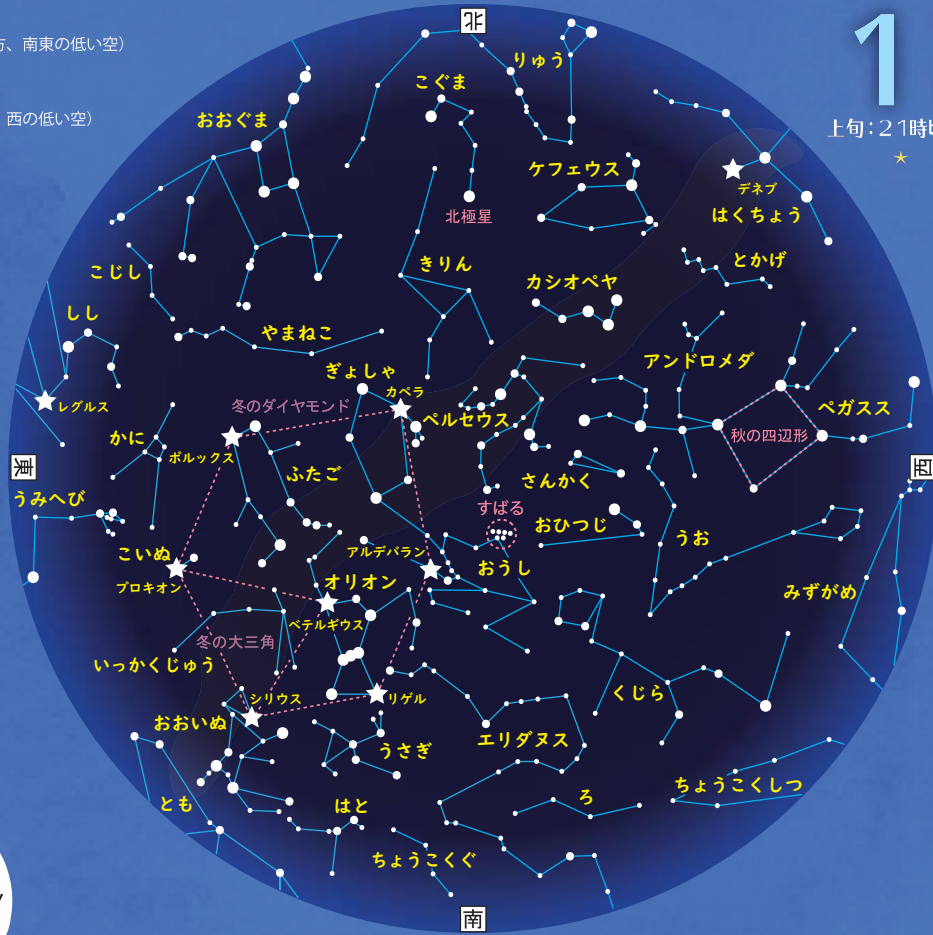


天文現象

- 1/1 月と火星が並ぶ (明け方、南東の低い空)
- 1/3 新月
- 1/4 月と水星が並ぶ (夕方、西の低い空)
- 1/5 月と土星が並ぶ (日の入～18時頃、西の空)
- 1/6 月と木星が並ぶ (日の入～20時頃、西の空)
- 1/7 水星が東方最大離角
…地球から見て水星が太陽の最も東側にあるとき。東方最大離角の前後数日間は、夕方、西の低い空で見つけやすくなります。
- 1/10 上弦
- 1/18 満月
…2022年で月と地球が最も遠い満月
- 1/25 下弦



- ★ 1等星
- 2等星
- 3等星
- 4等星以下

★星座盤の使い方



星座盤は空にかざして方位を合わせてみて！
空と重ねると…東西の向きが正しくなるよ。

ワンポイント星座



エリダヌス座

大きくうねった川の姿を描いた、全天で6番目に大きな星座です。川はオリオン座のリゲルの北西から始まり、アルファベットのZのような形に淡い星が南の地平線まで続きます。東京では全体を見ることはできませんが、沖縄のあたりでは、季節が合えば南端に輝く「川の果て」という意味を持つ1等星アケルナルを含めた、エリダヌス川の全景を見ることができます。

今月のポイント

1月18日 月と地球が最も遠い満月
2022年 満月の距離のちがい

2022年最も遠い満月 1月18日

2022年最も近い満月 7月14日



約40万1,000 km

地球の中心から
月の中心までの距離



約35万7,000 km

1月18日の満月は、2022年の満月の中で最も地球から遠い満月です。このため、見かけの大きさが最も小さい満月となります(2021年では12月19日の満月が最も遠い満月)。一方で、2022年で見かけの大きさが最も大きな満月は7月14日です。見かけではわかりにくいですが、写真で撮影して大きさを比べてみるとその違いがよくわかります。

(イメージ図) 参考: 国立天文台ウェブサイト

コラム

初日の出の前に! 31日~1日の明け方 月、火星、アンタレスの集合

2021年の大みそかと2022年元日は、明け方(午前6時頃)南東の低い空で、新月前の細い月と、火星、さそり座の赤っぽい1等星アンタレスが並びます。アンタレスの名前の由来はアンチ・アレス(火星に対抗するもの)であり、火星とアンタレスの赤さ比べを楽しむことができます。空の条件が良ければ、月の影の部分が見えたら地球照も見られるかもしれません。初日の出を見る予定の方はもう少し早起きをして、3つの天体の集合にもご注目ください。



HAPPY
NEW YEAR!!
2022

